# 京交山岳部報

No. 425　　'88　3月号

〔第１６７７回例会〕

## 中丹　竜ヶ城△645.6m

日　　時　3月6日（日）　　集合　壬生交通局　AM6:30

コ　ー　ス　京都ー福知山ー竹石…竜ヶ城…今西中…下夜久野

担　当　者　本局　大槻雅弘（TEL　722）

備　　考　申込〆切日　3月4日　　費用　2,000円

その他　大阪低山岳渉会と合同登山したいと思います。竜の年に、京都の山を楽しく初登山の竜ヶ岳に続いて登りましょう。

〔第１６７８回例会〕　府県境シリーズ

## 北山　皆子山△971.5m

日　　時　3月20日（日）　　集合　三条京阪　AM7:00

コ　ー　ス　梅ノ木行乗車7:22発ー平　下車…安曇川源流…寺谷…皆子山往路下山

担　当　者　OB　津田　実（TEL　798）

備　　考　申込〆切日　3月18日　　交通費　各自負担

冬山装備、　キャバン　不可

〔第１７７９回例会〕

## 願教寺山スキーツアー

日　　時　3月19日（土）～3月21日（祭）　集合　みぶ　PM2:00

コ　ー　ス　京都ー名神ーR156白鳥ー石徹白上在所…和田山牧場テント（泊）

和田山牧場…薙刀山…よも太郎山…願教寺山△1690.9

担　当　者　本局　三橋　勉（TEL　736）

備　　考　申込〆切日　3月15日（火）費用　15,000円（マイカー利用）

冬山装備一式、スキー用具、ヘッドランプ、テント、

シュラフ

〔第１６８０回例会〕 **スキー登山**

## 荒 島 岳

日　　時　　3月26日(土)～3月27日(日)　集合　壬生　PM1:30

コ ー ス　　京都東ＩＣ－福井ＩＣ－大野中出…小荒島…荒島岳(△1,523)

(往路下山)

担 当 者　　本局　井戸澄夫(TEL 849)

備　　考　　申込〆切日　3月23日　　費用　約5,000円

その他　昨年12月6日には、山頂まで行けませんでしたので、今度はスキーで挑みたいと思います。

〔第１６８１回例会〕 **京都国体山岳競技コースを登ろう**

## (A) 愛宕山コース

日　　時　　3月27日(日)　集合　清滝　AM8:30

担 当 者　　本局　井上一夫(TEL 876)

備　　考　　詳細は20ページを御覧下さい。例会参加申込みは、3月10日まで。

〔第１６８２回例会〕 **近藤　薫氏　喜寿お祝い登山**

## 金 剛 山　△1,125m

日　　時　　4月3日(日)　集合　壬生交通局　AM7:00

担 当 者　　OB　河村　清、(TEL 732)、　津田　実(TEL 798)

備　　考　　我が京交山岳部創立の功労者、初代山岳部長近藤薫氏が喜寿になられました。先に畑さんの古稀を、お祝いしたばかりで、こんなおめでたいことはありません。私達も氏の益々のご発展とその弥栄を祈り、又、それにあやかりたく、ここに、記念祝賀登山を企画致しました。何卒、皆様万障お繰り合わせの上、是非ご参加くださるようご案内申し上げます。

尚、近藤さんに記念品を、お送りしたいと思いますので、ご賛同の方は、金500円を3月20日までに、河村又は津田へ、お届けください。

### 総　　会

申込みは　鷲見まで(TEL 852)

3月10日(木)　PM6:30　鳴滝寮

### 4月の集会

インドア　「コンパスの使い方」　吉田　武

4月11日(月)　PM6:30　厚生会館4F　大教室

### 企画運営委員会

3月22日(火)　PM6:00　厚生会館4F　大教室

山声雪語

# 雪の径で

岡田茂久

先日、久方ぶりに雪の北山をＩさんと歩く機会を得た。

昨年１１月には、南国・四国の剣山というに一夜明ければ一面の銀世界、思わぬ新雪に驚嘆し「こりゃ一雪の楽しめる年になるぞ」と期待していたのであるが、案に相違して今年は異常ともいえる暖冬で北山でも雪の便りを聞くことも無く、例年ならばスキーに冬山にと、すでに何度か雪の感触を楽しんでいるはずであった。この日も雪など期待していなかったのだが、折よく前日からの季節風の吹き出しは、北山にも素晴らしい新雪を運んでくれた。

時折、木々の枝からの落雪をよけながらパーティの後ろをＩさんと歩きながら思い出したのは雪の台高山脈のことであった。

昭和３５年２月、京交山岳部創立１０周年を記念して、厳冬季の台高山脈縦走がＩさんをリーダーとする我が京交山岳部によって完走された。これは朝日新聞等にも大きく紹介され当時としては画期的な壮挙であったと記憶する。

そのころ掛け出しだった私もサポート隊として腰までのラッセルをつらいとも思わず、明神平に縦走隊を感激をもって迎えたものである。現在。我々が何気無く使用しているサイドポケットの無いザックは、ザックといえばキスリングが全盛だった当時、ブッシュ対策として始めてこのときに一沢帆布で製作されたのが、ルーツではなかったかと思ったりしている。

以来、台高山脈の京交山岳部としてその名は関西の岳界に定着し、台高山脈なら京交と自負もしていた。それなりに力もいれ、拓かれたばかりの縦走路に新設された山小屋にストーブを寄付することになり、６０kgをよたよたと自力でボッカしたことや、伊勢湾台風に直撃され、テントや装備を全て流され、命からがら脱出の貴重な体験もある。

しかし、時の流れは、台高山脈の深い樹林に踏み迷ったとき、心強い味方として我々を導いてくれた三角型の〝台高山脈縦走路〟の標識が朽ち果て、尾根筋も原生林の伐採ですっかり様替わるとともに忘れ去られ、いまでは我が山岳部でも高見山や大台ケ原は知っていても、〝台高山脈〟の名はすっかり過去のものとなり入山はもとより名もしらない人が多い。今ではもう腹がでっぱり山にはいささか御無沙汰の、Ｍ次長、Ｔ所長、Ｓ係長が台高山脈の猛者ぞったことを知っている人も少なくなった。そもそも京交が台高山脈に関わる発端となった西岡一雄先生の〝泉を聞く〟を読んだ人が何人いるだろう。

古稀も数年前に祝ったＩさん。厳冬期台高山脈縦走時はすでに４０才半ば、旧式の装備であったから３０kg近くはあったろう。そのスタミナは、いま考えてもすごいものだった。昨今は膝の故障がつらいとも聞くが、それでもさすがＩさんのトレースはしっかりしたものだ。

雪径でふと立ち止まり、「岡田君、私も若い時から先輩や先生方の考え方が理解できんといろいろ逆ろうてきたけど、やっぱりその年になったら判るもんやね。その年代の考え方はその年にならな判らんもんや」。若いリーダーの育成もままならず、彼等の考え方との格差に思いあぐね、相変わらず〝おじん〟の意が部の行動を左右している現状を心配していただいたのか、なんとも含蓄のある〝ことば〟をいただいた山行であった。

雪の急坂にステップをきりながら、40周年を迎える来年は当時のバイタリティーを思い出し、部活動の低迷を吹き飛ばす為にも、諸先輩方を招いて台高山脈にぜひ大挙入山したいものだと考えた。

**第1672回例会**

# 初登山　龍ケ岳

大　槻　雅　弘

春はあけぼの、夏はよる、秋はゆうぐれ、冬はつとめて雪の降りたるは言うべきにあらず…と。バスの窓から枕草子の一節を想い浮べながら、山裾から拡がる田圃の雪の白さを眺めていた。今冬初めての雪景色である。目指す龍ケ岳は、里山を前衛に従え顔を出さない。

この龍ケ岳は、愛宕山から北へ約2㎞、地蔵山の東900mの所に位置している。京都の人は「愛宕山」と言えば知っていても、龍ケ岳を知らない人が多い。京都市内から眺めると愛宕山の右にチョコンと丸みのある顔を出しているのが龍ケ岳である。特に山頂に特徴があるわけでもなし、そのうえ三角点もなく、独標であるのが少し山に登っている人にも知られてない理由の一つであるかも知れない。

でも、高い山の少ない京都で、900m以上14山中（独標含む）12番目の高さの山であり、「辰」の年に登る初登山の山として文句のないところであろう。

登山ルートとしては4コース程採ることが出来る。その一つは、愛宕山を登るコースの表参道を経て、裏へ廻り込んで尾根から龍ケ岳へ。同じく月輪寺コースからが二つ目である。三つ目は、首無地蔵を経て芦火谷へ下りシャクナゲの木々の多い急登を、一気にピークまで登るコースである。最後の四つ目は、西から登るコースで今回採った原からであり、地元ではジープ道と呼ばれている巾拡い道を、地蔵山から派生する尾根と合す処まで登り、愛宕山の裏に廻り込んで1・2と同じコースから登るものである。

私の龍ケ岳登山は、1971年1月10日雪の深い日に単独で、次いで1976年辰年7月の暑い日、岐阜の岳人と共に、そして今回が部の初登山として3回目の登山である。

奇しくも、16年前の同じ日、雪の日に、違ったコースから登ることになった。朝早くから汽車に乗り、バスに乗って登る龍ケ岳が、マイカー登山の多い近頃何故か京都の山とは思えない、遠くの山へ来たように思えた。

初登山にふさわしい新鮮な山の冷気が、雪と共に体を包み込む中、龍ケ岳の頂で力強く万才をした。各人、持ち寄りの材料で寄せ鍋をして、御酒も十分にいただいた後、愛宕神社にお参りし今年一年の安全登山を祈り下山した。

記　録　　1988.1.10　（小雪）

〔参加者〕　19人

奥村、村、荒田、三橋、大槻貞従、原田、浦、津田、方山、渡辺智生、田村、横井、大槻雅弘、出海　（他 5名）

〔コースタイム〕

京都7:13－8:25八木－9:05原…10:27地蔵岐れ…10:50龍ケ岳取付…11:30龍ケ岳10:12…12:20取付…12:25広場（昼食）14:05…14:25愛宕神社…15:25月輪寺…16:30清滝

第1673回例会

山スキー

# マキノから大谷山△813.6mへ

古市昌造

昭和63年1月17日を15日に変更し、壬生AM6時に出発、山科よりバイパスを通り161号を北上。蓬莱山・比良の山々にも積雪は無く国道もスキー行車両も少なく走りよい。時々パラパラと雨ではあるがたいしたこともないようである。7時5分ごろ、白髭神社近くで湖東の山並みより登るまっかに燃えた朝日が刻々と変化する湖面と朝焼け雲を染める自然の様子に驚きながら車を止め朝食を摂りながら見惚れていた。家並に少し積雪のある、マキノ町を過ぎスキー場駐車場に止める。休日のためスキーヤー達も多く、曇空で時々雨もぱらつきであるが身仕度を整える。

ゲレンデの所々は赤茶けた部分も見られるが、登行コースには充分な雪でスキー場左上部の林道え向けシーズン初のシールを効かした登行はなんとも楽しい物である。最初の分岐点までは林道も広くシーズンお初にしては「心（山馬鹿気違い）・技（自惚れ100%）・体（化石人間）」とも、いい様では有るが登るに従い段々と積雪量に問題が出てきたのである。JR西日本の積雪だよりでは60cmの発表も、現地では様々で吹き溜まりでは1.50cmも有り初冠雪のためフワフワ雪でスキーは潜り、倒木・小枝のブッシュ等、美濃のヤブ漕ぎのようで小枝を掴み引き上がる登行で林道の吹溜りをさけ尾根づたいを取り悪戦苦闘の連続で思うように進めず、眼下に見えるマキノスキー場のスキーヤーを恨めしく思い、何でこんな思いまでしてと思いつつ懸命に努力しアルバイトに励む。何が何でも「大谷山」迄はと思うが、小枝掴み・漕ぎスキーでは、化石限界に近く、登り下りの山行も空腹には勝てず昼食とす。愛妻・ほかほか弁当とて風とガス・氷雨の中山仲間の友情が温かいラーメンとなり疲れもふっとび次の行動になるのであるが、今日ばかりは前へ進む気に成らず、ガスと氷雨の不安定な空をにらみ現在地の確認をし早々に空腹を満たし、山頂迄1ピッチの私にとっ

ては本年初の山行ではあるが引き返す事にする。枝漕ぎの登行で下りはスキーでは無理で、ツボ足のアルバイトも膝上迄の湿雪では思うように進めず、元気印の御老体も悪戦苦闘でこの時ばかりはスキー板を谷底めがけてほりなげたい気持ちである。全身汗と湿雪でずぶぬれで、ようやくゲレンデ上部にやっとこさでたどりつき、再度スキーを付け駐車場迄の僅かな時間初滑降に今日の山行気分を満たし帰路に着きました。

（反　省）　　積雪不足・充分に圧雪された状態での積雪・ワカン一必携等。

〔参加者〕　　大槻雅弘、　三橋　勉、　古市昌造

〔コースタイム〕

京都6:10 — 7:50 マキノスキー場8:10…9:10 スキー場上部…11:40稜線直下（昼食）
12:40…15:00 スキー場 — 17:00 京都

第１６７４回例会

# 雪のなかった桟敷ヶ岳と三角点騒動の岩屋山

山　元　誠　一

「１月の下旬だから、桟敷ヶ岳にも必ず雪があるだろう」と思って、〝雪山歩きを楽しみましょう〟というサブタイトルをつけて出した例会でしたが、暖冬の影響で登山路はもとより、頂上にも全く雪がなく、参加された方々も、さぞやがっかりされたことと思います。しかし、少し苦労はしましたが、当初の予定になかった岩屋山の三角点を踏めたことと、頂上で、アッタカ〜イおうどんを食べられたことで、良しとしておいて下さい。

朝、家を出る時、子供の寝顔に、今日一日の「無罪放免」を頼んで、三条京阪に向う。厳寒期なのに、雲ケ畑行のバス乗場は、中高年者の人達を初め大勢の人で長蛇の列。多くの本に、「手軽に楽しめる冬山」として北山が紹介されているからであろうか？

１台のバスではとても無理で、都合３台のバスが出た様子。我々６名は２台目のバスに乗り込む。少し寒いものの快晴、今日一日は好天が望めそうである。バスは途中、出合橋等一部停留所で停まったのみで終点岩屋橋へ。

バスを降りたつと「寒い！」思わず口をついで出る。気温は零度以下なんでしょうか、子守りに疲れたなまくらな身体には、寒さまでこたえます。（ハイ！）　帰りのバス時刻を確認して、岩屋山に向けて出発。右側に惟喬神社を見て、岩屋谷に沿ったアスファルト道を歩くと、２０分ぐらいで岩屋不動に着く。こゝ岩屋不動は、かの有名な役の行者が創建したと伝えられ、山中には多くの

行場があるという。また、初夏には、シャクナゲが咲きほこることで有名である。心の中で手を合わせて、薬師峠への山道を登る。少し行くと、大きな岩のあるところにでる。そこで道は二分しており、あるガイドブックによると右側の谷を行けば薬師峠に、真直ぐ行けば岩屋山にとあったので小休止後、真直ぐ進むこととする。ところが、その道（谷）はすぐに、また2手に分かれており、その谷筋も歩きにくそうなので、中央の尾根を歩く。倒木を乗り越え、熊笹をかき分けて進むとやがて頂上らしきところに出る。しかし、三角点もなく、左前方にピークが見えたので、先に進むと薬師峠から岩屋山に至るらしい道に出会う。左手の方向に少し行くと、ありました岩屋山の三角点が、あまり訪れる人もなく、ひっそりとした木立ちに囲まれて。ところが、再度、地図を見ると、岩屋山の三角点は、山の頂きにあるのではなく、双峰を形成している岩屋山の東側のピークから少し東へ下った尾根の中間に位置しており、それに対して我々が現在いるのは、「東側ピーク」なので、地図の三角点の位置が誤まっているのではという意見が出、そこでそれを確認するため、西側のピーク迄行くことにする。少し行くと弁財天と書かれた社があり、さらに進むと、高さが4～5mもあるやぐらがありました。岡田さんと横井さんが上がられましたが、周囲の木立ちで展望がきかないとの事。そこで井上君が西に偵察におもむき確認してくれたところ、少し行けば尾根状になっているところがあり、その向うにピークがあるとのこと。そこで結論。ヤグラは東峰に位置し三角点はやはり薬師峠へ伸びる尾根の中間にあり、地図が正しかったことが証明され、「これにて一件落着～」。再び、三角点のところに引き返えし薬師峠に向う。三角点から薬師峠までは、約5分。道もしっかりしていて岩屋山に行くには、こちらの方が良さそうです。

薬師峠には木造の祠とやさしい表情の六地蔵尊がある。北西の道をたどれば大森の里へ、南東は岩屋不動に、我々の目指す桟敷ケ岳は北東の尾根筋の道を行く。冷たい風が吹きぬけるその道はところどころ土がカチンカチンに凍っていた。途中、後方を見ると樹々のあいまに岩屋山の双峰のピークを確認することができた。岩屋山でやゝ時間をとりすぎ、予定より遅れ気味だったのでハイピッチで歩く。それでも見晴らしのよい、陽だまりの所では、やはりお休みタイム。単調な尾根道なので、何度も同じ様な道を歩いている様に感じる。空から粉雪がちらちら舞いおりてきた頃、都ながめの岩に。桟敷ケ岳には惟喬親王にまつわる伝説が多くあり、この「都ながめの岩」もその1つで、皇位継承の争いに敗れ大森の里に隠栖された親王が、京の町をみるため山に登られ、こゝから都をながめられたという。

やがて、急に視界がひらけたと思うと送電鉄塔の下に出る。桟敷ケ岳は、すぐ前に見える。凍った道に足を滑らせながら一度下って、再び熊笹の中を泳ぐ様に進むと頂上である。先着されている人が約20人程度おられる中、万才三唱。御苦労様でした。三角点から少し離れたところに適地があったので、そこで昼食をとる。本日のメニューは、井上料理長の〝天ぷらうどん〟。冬は暖かいものがいいですね。

我々が食事を終えた頃、先着されていた人達は下山されたと見え、山頂には我々6人のみ。記念写真をとったのち、雪のない頂上をあとにし、鉄塔まで引き返す。丹波地方の山々や、比良山系の見晴らしがよい。そこから祖父谷林道までは、イッキの下りである。巡視路としてつけられたその

道を３０分余り下ると祖父谷林道にでる。さすがに寒さが厳しいからであろうか、谷筋のいたるところに大きなツララができていた。そこから岩屋橋までは、林道をテクテク歩くことになる。1時間余り歩いて、いゝ加減、林道歩きがいやになった頃、横井さんが道端に石碑があるのを見つけられる。そこには「祖父谷のいわれ」と刻まれており、祖父谷というのは、小野の里に住んでいた小野素風（有名な小野道風の父）の素風（そふう）からきたものだとあった。これで、また１つもの知りになりました。そこから岩屋橋までは、約５分であった。

〔参加者〕　岡田さん、　横井さん、　方山さん、　竹田さん、　井上さん、　山元

〔コースタイム〕　６３年1月２４日（日）

三条京阪 8:26 ― 9:20 岩屋橋 9:30 …岩屋不動 9:50 … 10:45 ▲岩屋山 11:05 薬師峠 11:10 … 12:30 ▲桟敷ケ岳 13:30 …祖父谷林道出合 14:15 … 14:25 …岩屋橋 15:25 ～ 16:40 ― 北大路駅 17:30

# ヒマラヤの山旅

木　原　　滋

あこがれのヒマラヤへ行けることになりました。いくつかの旅行社が、いろいろなプランのツアーを売り出していて、その中のどれを選ぶか、迷いました。はじめてのヒマラヤだから、やはり「エベレスト方面がよい。」と云うことで、「自分の手荷物だけを持って、ただ歩くだけ。」？「エベレスト・パノラマトレッキング。」を申し込みました。

１２月２１日、１１時３０分大阪空港発。バンコクで一泊、バンコクからカトマンズに飛ぶ。機内からは、始めにカンチェンジュンガが、次にマカルー、エベレスト、と地図と写真でしか知らない山々が次々と展開して、２２日１３時にカトマンズに着きました。大阪からの同行は、エベレストコースの５名、アンナプルナコースの５名の外に、ランタンへ行く新婚さん、個人行動でエベレストコースを行く人、ツアーリーダーの高方さんが一緒で、明日には東京方面から来る人達と合流することになります。エベレストコースの者は、ここからまた小型飛行機に乗り２８３０ｍのルクラへ入ることになるのですが、２５日にしか予約がとれなかったので、２日間は自由行動となりました。できればアンナプルナ方面の町ポカラへ行きたい、と飛行機を申し込んだのですが、行きは何とかなっても、帰りが全くダメ。で、自動車だと６時間から１０時間はみておかなければならない。それも故障でもすれば、かんじんのルクラへの時間に間に合わなくなる。と云われ、ポカラ行きはあきらめました。カトマンズの街、古都パタン。ヒマラヤの展望台、と云われている、ナガルコットとカカニ、等々。あちらこちらと歩いていると、ビックリすることばかりですぐに２日間をすごしてしまい、いよいよトレッキングへ出発の日となりました。

１２月２５日　６時起床。ルクラへの定期便は、８時と８時５分発、と予定されています。ホテ

ルから出ると、カトマンズは霧の中で、霧が晴れないと、１８人乗りのプロペラ機は、飛びません。

１０時５０分、カトマンズ発。１１時２５分にルクラ着。ここで我々が今回お世話になる、サーダーのテンジン（テンジンが２人いて、ロングテンジンの方です。）シェルパ、クック等が待っていてくれました。ツアー参加者は、東京発組と合わせて１０人、内女性３人。リーダーは大阪から同行の島方さんです。

昼食後大きな荷物をゾッキョ？（牛とヤクの雑種で牛と同じような動物）につんで、１３時１５分にルクラを出発しました。この道は、日本人の間ではエベレスト街道と云われていて、４０００数百ｍの所まで点々と村がありますので、この地方のメインストリートにあたるわけではありますが車の類は一台もありません。人間と牛類が歩けるだけの、登山道の少し道巾が広いだけのものと考えて下さい。途中右手にヒマラヤらしい山、クスンカンが見え、１６時２０分にパクディンへ着きました。この街道ぞいには、ロッジ、ホテル等のカンバンの出ている民宿が沢山ありますが、僕等にはテントとシュラフが用意されています。新品の５人用テントを６張りと、トイレ用テントが張られました。食事用テントとイスも用意してくれていますが、ここではロッジを使用し、食事は我々のクックが作ってくれます。５人用テントを２人で使用しますし、マットも用意していますのでリュックを置いても中はゆったりしています。

２６日　７時起床。ティとお湯をテントまで持って来てくれます。７時４０分出発、モンジョで昼食。１３時ドウドコシ河の河原へ出ました。何百ｍかの登り、下りがありましたが、この地点はルクラと同じ２８００ｍで、ここから急な登りになり、１６時にナムチェバザールへ着きました。ナムチェはこの地方の中心になる村で、標高は３４４０ｍになっています。村のすぐ上のヘリポートへ行くとエベレストとローツェが真正面に姿を見せ、タムセルクと共にスバラシイ夕景色です。

しかし、ナムチェに着いて２時間ほどたった頃から頭が痛くなり、食欲も少なくなって来ています。外には西口さん、桑原さん、坂本さんも同じような様子です。

２７日　６時起床。ここで高度順応をうまくやることが、後の計画に大きく影響しますので、朝はのんびりとして、１１時１５分にナムチェを出発。正面にエベレスト、右にアマダブラムを見ながら登り、また３０００ｍ地点まで下ったプンギにテントを張りました。

２８日　８時３０分出発。今日の目的地タンボチェまでは、８００ｍの登りですが、ゆっくり歩いても３時間もかからず、１１時にはタンボチェに着きました。心配していた高度障害は、食欲が少ない程度で大したことはありません。我々はタンボチェのスバラシイ展望をたのしんでいますが西口さんは昼食にも夕食にも出て来ません。

２９日　朝食の時に、島方リーダーから話がありました。西口さんが少し良くないので、とにかく何とかなる、ナムチェまで自分が一緒に行きます。ペリチェ４２４３ｍへ行く件はサーダーにたのんでありますが、木原さんと坂本さんはどうされますか？とのことです。

ツアーリーダーがいなくなれば、どうしても元気な人のペースになるだろう。それでも調子はそんなに悪くないので、ペリチェまでは行けると思う。途中でシンドクなれば、そこからタンボチェへ引き返せばよい。と考えたのですが、「朝に荷物が出発すれば、荷物だけはペリチェへ行ってし

まう。」ことになるので、大事をとって4000m位いの地点からタンボチェへもどることにしました。突然話が変わりますが、今日も良い天気です。カトマンズへ着いた日から、雲がほとんどないカラカラの天気ばかりで、いつの間にか天気のことを考えなくなっていました。

ツアーリーダーに聞くと、この時期のヒマラヤも日本と同じ冬にあたり、乾期でも時々は雪が降るそうで、雪が降ると飛行機も飛ばなくなり大変です。タンボチェのテント場にも一週間ほど前に降った雪が少し残っていて、日影ではカチカチの氷になっている所もあります。夜は気温もマイナス10度くらいになって、水筒の水も朝には少し凍ることもありますが、昼間は日本の5月頃のような暖かさで、夜も寒くて困ることもありません。

8時30分　タンボチェ出発、1時間ほど行った所でカトマンズまで同じ飛行機で来て、1日早くルクラへ行き、個人行動で同じコースを歩いている内藤さんに出合いました。5000mの地点まで行って引き返して来たそうです。3985mの村パンボチェ着11時、昼食後はペリチェへ行く仲間を見送りました。元気な先頭の人達と同じペースで歩いても少しもシンドクありませんので、残念には思いましたが、ペリチェに行くと谷間に入り展望も良くありませんので、景色のよい所でノンビリやっているのもまた良いのではないかと、考えなおし、4000m地点から引き返し、15時40分にタンボチェに着きました。

昨夜はアメリカ人？のテントもあってにぎやかだったテント場には、僕のテントがポツンとひと張りだけあって、何かワビシイ感じなので、今日はエベレストが正面に見えるロッジに泊ることにしました。北アルプスの山小屋の様な二段ベットで、宿泊費は20ルピー（120円位い）。食事は我々のセカンドクックとキッチンボーイ（14才でシェルパ見習い）が作ってくれます。タンボチェには外にシェルパがひとり、とゾッキョが残っています。

30日　外が明るくなったのでカーテンを開けると、正面のエベレストとローツェ、右側のアマダムラムが朝焼けで赤く見えます。今日はペリチェ組を待つ予定になっていますが、タンボチェにいると次の日の行程が長くなります。当初の計画では、30日はタンボチェ泊り、31日ナムチェ1月元日はルクラとなっていましたが、西口さんが高山病で島方リーダーが一緒におりることになった時点で、30日はプンギ泊り。31日はナムチェより約3時間ルクラの方へ下ったモンジョかチモア泊りを指示しています。しかしペリチェへ行った連中は、当初計画通り、を主張していたので、リーダーがいなくなれば当初計画通りになりそうです。朝食の時にシェルパと相談すると、オッケー、ナムチェ、ゴーと云うことになり、ペリチェ組との連絡はセカンドクックが残って話をして連絡がとれればクックもすぐナムチェへ行く、とのことになり、9時45分にタンボチェを出発ナムチェに向います。

テントとリュックはゾッキョにつみ、シェルパが追って前を行きます。今日はゆっくり時間があり来た時と同じ道でよくわかっているので、ノンビリと歩けます。一度プンギまでおり3600m近くまで登ったサーナサで、紅茶とビスケットを昼食がわりにして15時にナムチェに着きました。ナムチェには島方さんがいるはずなので、シェルパにそのことを云うと、シェルパは、「ミスターシマカタ、テンジンハウス。」と返事をします。どこかで島方さんがサーダーの家にいることを聞い

ているのです。テンジンの家に行くと、やはり島方さんと西口さんが居ましたが、西口さんは横になったままで、相当苦しそうです。昨日はブンギまでおり、今日は途中まで何とか歩いたが途中からはポーターをやとってナムチェまでかついで来た状態で、カトマンズとも連絡をとっているが、今夜はサンソ吸入をして、明朝の様子で対策を立てる、とのことです。

テント2張りを表に張り、僕はテンジンの家に、その日来ていたラマ僧と同じ部屋に泊めてもらい、サーダーの弟テンジンさんのお世話になりました。

31日　西口さんは、朝食を少したべました。今日もポーターをやとって、歩けない時はかついで行くことになり、島方さん、シェルパと一緒に出発しました。今夜はモンジョで全員集合の予定なので、僕と坂本さんはナムチェ付近でゆっくりしました。11時15分にテンジンハウスより出発、モンジョ着15時15分。他の7人は今日は来ません。

僕等についていたシェルパから、島本さんと西口さんについていたシェルパに話があって、7人はナムチェ泊りになったことを、今リーダーも知ったわけです。テントは2張り来ていますが、僕は今日も民宿泊りで、宿泊賃は5ルピー（約30円）です。夜中にトイレのため外へ出ると、きれいなお月様が出ています。ナムチェとルクラ以外の村には電気がなく、トイレのある所が少ないので、夜にお月見トイレになることが多く、お月様の光に照らされた山々もまたスバラシイ景色です。

1月元日　全員集合の予定が4人のサビシイお正月となり、用意していたオモチもナムチェにあります。しかし、西口さんが少し元気になり、今日は自分で歩けそうです。

8時15分に出発し、10時45分にパクディン着。ここでナムチェから来た7人と合流し12時50分に出発、15時55分にルクラに帰って来ました。夜は我々のトレッキングに関係して、ルクラにいるネパール人も全員集り、真っ黒になってネパール人と見分けがつかなくなった日本人も一緒に、ハッピーニューイヤーの会を開いてくれました。この後もあてにならない飛行機等いろいろあり、まだまだ長い旅が続きましたが、1月5日、20時25分。やっとのことで京都へ帰って来ました。

スバラシイ旅で、楽しい山旅でしたが、病気になってもお医者がいません。もしヒマラヤ行きを計画される方がありましたら、この点を充分考えてお出かけ下さい。

当初の計画表

エベレスト・パノラマトレッキング　16日間

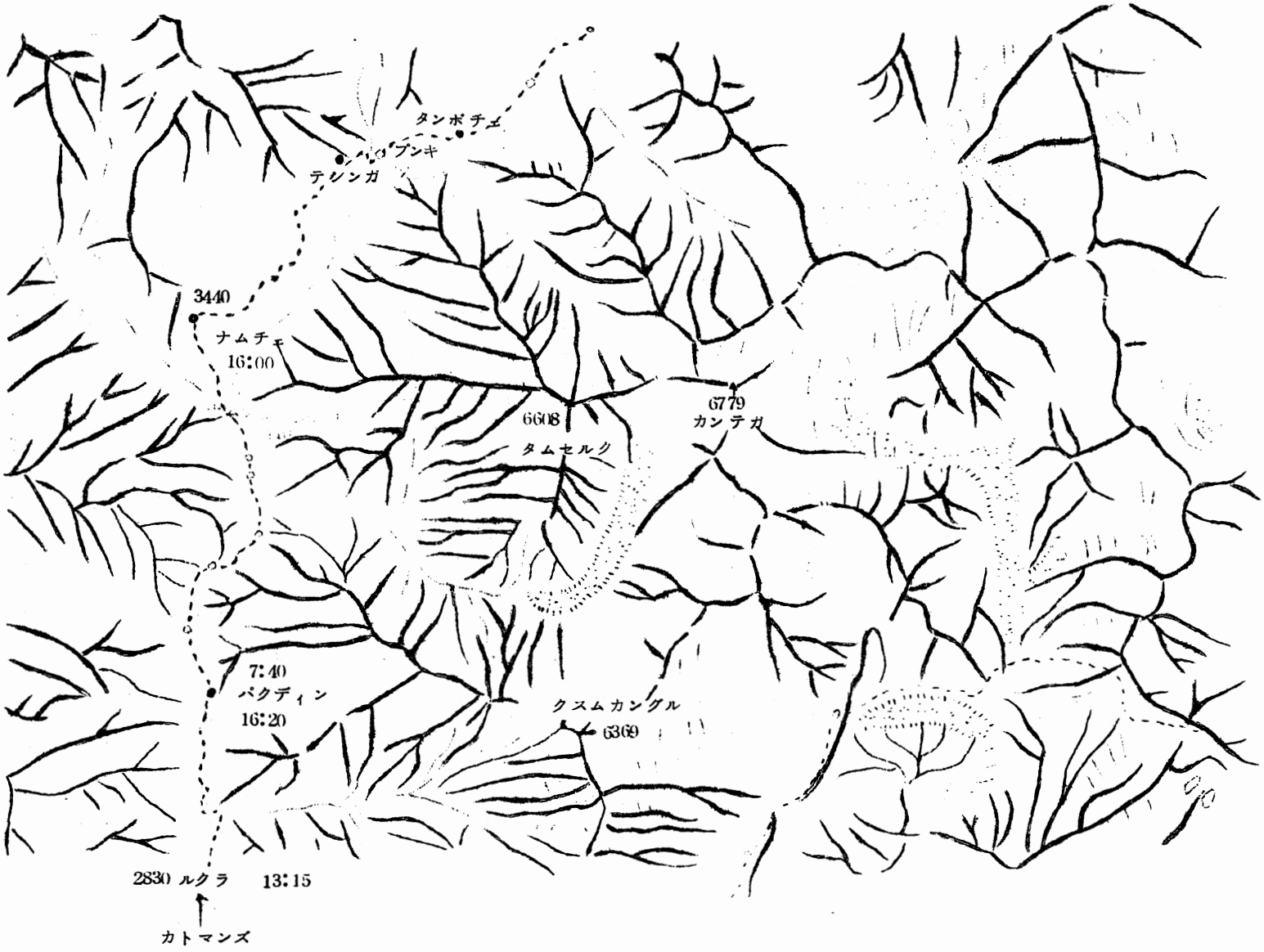
| 日数 | 月 日 曜 | 発着都市名 | 時間 | 交通 | 摘　　要 | 宿泊 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 12/21(月) | 大　阪　発 | 11:20 | CX 503 | 大阪発、キャセイパシフィック航空にて、 | |
| | | ホンコン 着 | 14:30 | (15:30) | 空路、ホンコン経由バンコクへ。 | |
| | | ホンコン 発 | 15:25 | CX 751 | | |
| | | バンコク 着 | 20:20 | | 着後、現地ガイドの案内でホテルへ。 | ホテル |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 12/22(火) | バンコク 発<br>カトマンズ 着 | 10:45<br>12:40 | RA 408 | バンコクよりロイヤルネパール航空にて、空路カトマンズへ。着後、現地ガイドの案内でホテルへ。その後、自由行動。 | ホテル |
| 3 | 12/23(水) | カトマンズ滞在 | | | 自由行動。オプショナル(別料金)にて市内および郊外の観光など、お楽しみ下さい。 | ホテル |
| 4 | 12/24(木) | | | | | ホテル |
| 5<br>6:00<br>起床 | 12/25(金) | カトマンズ 発<br>ルクラ 着<br>ルクラ 発<br>パクディン | 午前<br>午前<br>午後<br>午後 | 航空機<br>徒歩<br>3時間 | 朝、空路ルクラ(2,830m)へ。着後シェルパ達と合流し、昼食後、トレッキング開始。ドウドウコシ沿いの平担な道をパクディン(2,600m)へ。 | テント |
| 6 | 12/26(土) | パクディン 発<br>ナムチェ 着 | 朝<br>午後 | 徒歩<br>7時間 | 谷沿いの道を、ジョサレへ。サガルマータ(エベレスト)国立公園の入園手続き後、急な山道をシェルパの里ナムチェ(3,440m)へ。 | テント |
| 7 | 12/27(日) | ナムチェ 発<br>テシンガ 着 | 朝<br>午前 | 徒歩<br>3時間 | タムセルク、カンテガ、アマダブラム、エベレスト等を眺めながら平担なトラバース道をゆっくりとテシンガへ。 | テント |
| 8 | 12/28(月) | テシンガ 発<br>タンボチェ 着 | 朝<br>午前 | 徒歩<br>3時間 | まず、下り道をプンキへ。そして谷底のプンキから尾根沿いの坂道をゆっくり登って山群随一の展望台タンボチェ(3,867m)へ。 | テント |
| 9 | 12/29(火) | タンボチェ 発<br>ベリチェ 着 | 朝<br>午後 | 徒歩<br>6時間 | ローツェ、ヌプツェ、エベレストを正面に見ながら、なだらかな登りを、東京医科大学高山医学研究所のある、ひらけたU字谷の中のベリチェ(4,243m)へ。 | テント |
| 10 | 12/30(水) | ベリチェ 発<br>タンボチェ 着 | 朝<br>午後 | 徒歩<br>7時間 | 元気な方は、マカルーなどを望むベリチェ背後の峠(4,412m)を往復後、タンボチェへ下ります。 | テント |
| 11 | 12/31(木) | タンボチェ 発<br>ナムチェ 着 | 朝<br>午後 | 徒歩<br>5時間 | 往路をエベレスト、アマダブラムなどをふりかえりながら、シャンボチェを経てナムチェへ。 | テント |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 1/1(金) | ナムチェ 発<br>ルクラ 着 | 朝<br>午 後 | 徒歩<br>6時間 | エベレストの展望にも別れを告げ、ジョサレ、チモア、パクディンなどの村を経て、ルクラへ。 | テント |
| 13 | 1/2(土) | ルクラ 朝発<br>10～11頃<br>カトマンズ 着 | 午 前<br><br>午 前 | 航空機 | 空路、カトマンズへ。着後、現地ガイドの案内でホテルへ。その後、自由行動 | ホテル |
| 14 | 1/3(日) | カトマンズ滞在 | | | 終日、自由行動。(フライト予備日) | |
| 15 | 1/4(月) | カトマンズ 発<br>バンコク 着 | 11:25<br>15:45 | RA 407 | ヒマラヤに別れを告げ、カトマンズより、ロイヤルネパール航空にて、空路バンコクへ。着後、現地ガイドの案内でホテルへ。 | ホテル |
| 16 | 1/5(火) | バンコク 発<br>成 田 着<br>羽 田 発<br>大 阪 着 | 02:15<br>12:20<br>18:00<br>19:00 | PK 760<br><br>JL 125 | バンコクよりパキスタン航空にて、空路成田へ。<br>羽田より空路、大阪へ。<br>お疲れさまでした。 | |

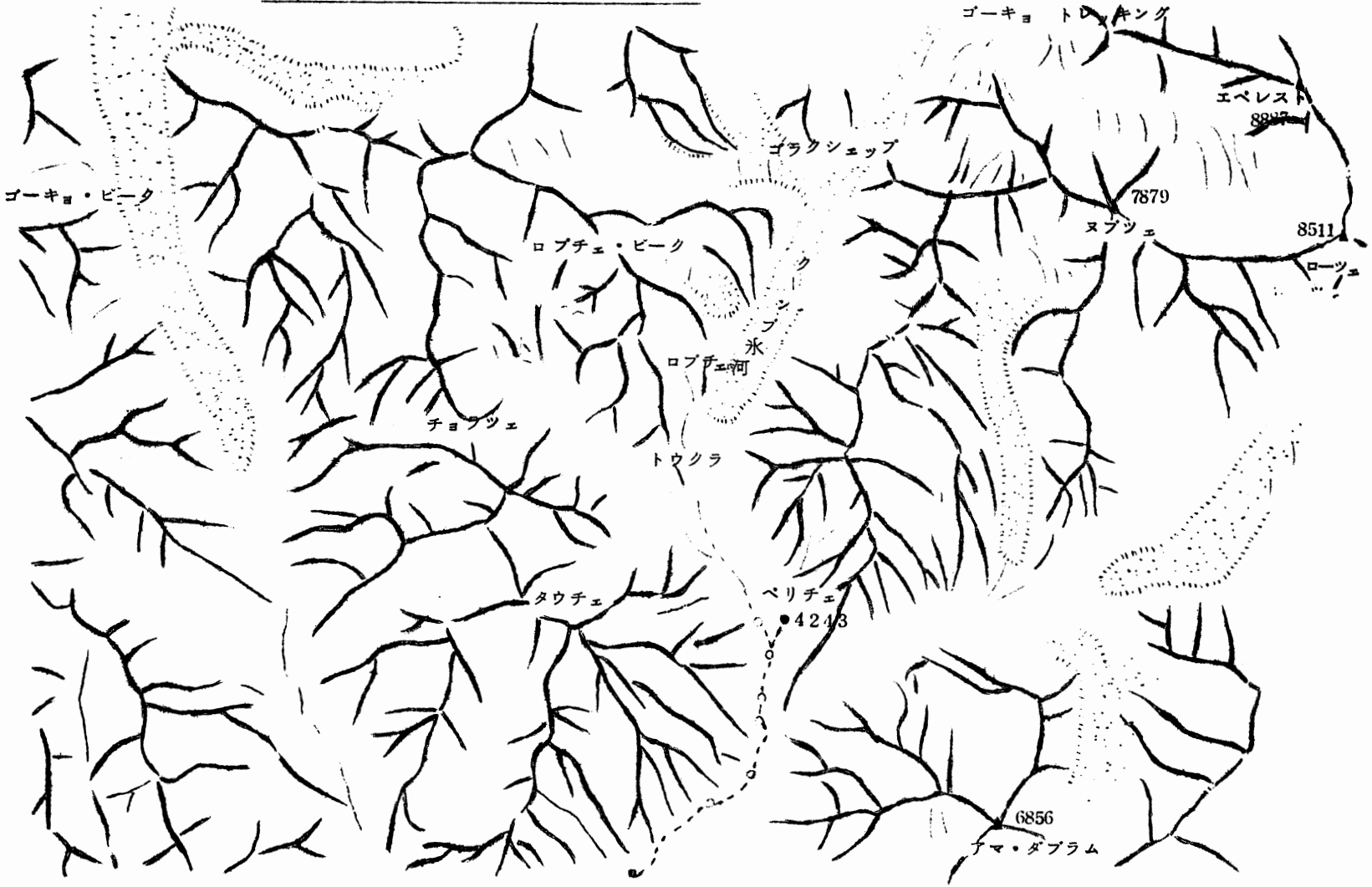
- 利用航空機の発着時間および便名は、航空会社の都合により、変更される場合があります。
- トレッキングのスケジュールは参加者の体調(高所順応も含む)、および気象条件等、現地事情により一部変更または調整される場合があります。
- 特に、カトマンズ～ルクラ間の山岳飛行便は天候、航空機材、運行状況など現地諸事情のために予定通りに飛べないことがしばしばあります。そのため日程に多少の予備日はとってありますが、事情によっては日程の変更や他コースへの変更(最悪の場合には帰国日の変更)もあります。
- 帰国日の成田～羽田間の移動手段は手配されておりませんので、到着時にお客様ご自身で羽田空港へ移動して下さい。なお、これにかかる交通費等はお客様のご負担となります。

☆以上、あらかじめご諒承下さい。


タンボチェ
ンブンキ
テンンガ
3440
ナムチェ
16:00
6608
タムセルク
6779
カンテガ
7:40
パクディン
16:20
クスムカングル
6369
2830 ルクラ 13:15
カトマンズ

# KHUMBU HIMAL

エベレスト パノラマ トレッキング
エベレスト ロング トレッキング
ゴーキョ トレッキング



# 目　録

伊　藤　潤　治

登っても、登っても飽きず。いや登れば登るほど、新しく登りたい山が増えてきて、実に山は、たまらない歓びなのではあるのだが、いつまでも、こんな「底なし釣瓶で水を汲む、谷耕月」ような真似をしていては、もう身がもたぬ。そう思った。そこで足を洗わぬまでも廃車・ダルマ化して自粛することにした。まあ一長らく気になっていた身辺の雑然が少しは整ったものの、この僅かな月日で視力・足腰がおかしくなりだしたから、折角の保養・自粛も逆効果であったかと慌てた。

そのご山に入ることで追々回復したが、やはり武者小路実篤の人生論「一から一をひけば零である。人生から愛をひけば何が残る。土地から水分をとれば沙漠になるようなものだ。P85」の言葉のように、私から山をひけば何が残る。つくつく心身の癒に外ならない、と観念したことである。


**ま一**

前穂高・東面壁　409号。
槇尾山・三国山・燈明岳　218号。
巻機山の秋　387号。
松尾寺参拝と青葉山登頂　75号。
真妻山・赤城山・立伍山　378号。
真夏の山歩き（岩屋・愛宕など）　287号。
真冬の木曽駒ケ岳　366号。
幻の一　古道を求めて　348号。
　　廃道始末記　122号。
　　氷の山殿下コース　318号。
　　福寿草を求めて　392号。
継母岳　194号。
マヨイ峰　289号。

二部、（山声雪語・随想その他）
マイカー登山への驚醒　285号。
マイペースを知る　419号。
埋蔵金（山と伝説　48）　225号。
まだふみもせず　40号。
松くい虫と虫くい松　303号。
待つ時間　149号。
祭りだヨ、全員集合　252号。
マナスル登山隊帰国報告会に出席して　45号。
〃　登攀講会より　13号。
魔の山　ナンガーパルバット　371号。
マムシ　121号。

**み一**

見当見山と賤ケ岳　171号。
三峰（畝）山　152号。
三上山（近江富士）432m　268号。
三上山と希望ケ丘アスレチック　326号。
三国岳から養老山　196・309号。
奥村弘信氏還暦祝福登山　412号。
三国峠から八ケ峰　240号。
三国岳△959m　260・262・278・319号。
三国岳と多紀アルプス　266号。
三国ケ岳（江・越・美）　302・326・

３６３号。
三国岳△７７６m　３２０号。
三国岳△６４８m（篠山）　３３５号。
三国峠・坂下から篷萊山　３６１号。
三国岳（彦根東部）　３８１号。
三国岳と三国峠　４０９号。
三国岳と弥十郎ケ岳（園部）　４１１号。
弥仙山　３１７号。
〃と篷ケ峰　１９７号。
弥山谷・八経ケ岳・行者還岳　２７５号。
三岳　１５０・３３５号。
〃と小金ケ岳　２１０号。
三岳と深山　３４５号。
〃と三国岳　２６４号。
三岳山（伝説の山）　１６４号。
〃と伏見山　２３１号。
水井山△７９４m　３５５号。
〃から三石岳へ　３３０号。
〃辻久雄氏退職記念登山　３８９号。
三ケ谷山と白尾山偵察　３４９号。
三津河落山　１１２号。
三頭山　２６６・２９２・３１１号。
三成山・東床尾山・来日岳　１６５号。
三ツ又（猫ケ洞）　２８８号。
三ツ森山と保古山　３１７号。
みちのくの山　１２９号。
皆子山　２１７・３２３号。
〃から天ケ森△８１３m　３７３号。
南アルプス、　駒ケ岳　３００号。
失敗記　２９９号。
南部縦走　２１５号。
ひとり旅
南東北と信州の山旅　３９８号。
峰床山　１７０・３２０号。
箕面は荒れている　２０９号。
美濃国南端△６１３m登行報告　３６７号。
身延山・金峰山・乗鞍岳　２２７号。
美濃俱丸　２６５号。
三室山△1358m　２１１号。
宮妻峡から水沢岳・鎌ケ岳　４１５号。
宮之浦ケ岳△1935m　３２０号。
明王谷から百滝谷・木戸峠・大谷川　１０８号。
明王谷溯行　４８号。
妙見変じて鉢となる（村岡）　１１３号。
妙見山・1142m　２２１号。
妙高山（福知山）　２６８号。
妙高山（妙高山）　３１２号。
明神ケ岳・黒柄岳　４１５号。
明神平小屋誕生する。　９３号。
〃から蘇ケ岳　１１１号。

二部、（山声雪語・その他）

三国岳（1970）　２０７号。
径とパイオニア　８２号。
光永君の死を悼む　１４２号。
緑のオーナー　４１２号。
緑を見た　１１６・２６４号。
水芭蕉と大日岳　２６１号。
ミネラルウオーター　３８１号。
美濃と奥美濃　１３９号。
実り多き冬山合宿　３５４号。
壬生運輸スキー大会の跡　１５号。
みみずのたわ言（最近思うこと）　３５２号。
耳と口・四寸の学　４１１号。
宮俊部長の逝去を悼む　３６１号。
宮俊正樹前山岳部長追悼号　３７４号。
宮俊純子夫人の謝辞　３７６号。

む ―

向山△695.5m　３０７号

ムシンボと栃原　３６１号。

二部、（山声雪語・その他）
虫　の声　４９号。
無雲期のキャンプ　２０３・４０９号
無題　１９１号。

の一
迷山紀行（半国高山・桟敷ケ岳）　７・８号

二部、（山声雪語・毒語缶）
明暗　２０９号。
メスとビッケル　１８２号。
メタセコイヤ　４０８号。

も一
母袋烏帽子と金剛堂山　２５５号。
元八草峠北とケツネ洞の上　３７３号。
物見石山　３９３号
栂嶺山と猿ケ馬場山　３９３号。
〃と三方岩岳　２８５号。

二部、（山声雪語・その他）
目録（照顧脚下を改称）
あ一　４１６号。
か一　４１８号。
さ一　４１９号。
た一　４２１号。
な一　４２２号。
は一　４２３号。
もてもての富士登山　３２２号。
ものには順番がある　１１９号。
森友次郎氏の死を悼む　１０４号。
森本次男先生の顕彰事業について　１６４号。
モンネの山舎　９２号。

１９８８．１．２９

# 例　会　報　告

| 例会No. | 目的地 | 月日 | 天候 | 担当者 | 参加者 | 記事 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1672 | 初登山<br>龍ケ岳 | 1月10日 | | 大槻　雅弘<br>三橋　勉 | 奥村、村、荒田、三橋、大槻貞從、原田、楠、津田、方山、渡辺智生、田村、横井、大槻雅弘、出海、（他　5名） | （別稿詳報） |
| 1673 | 山スキー<br>マキノから<br>大谷山へ | 変更<br>1月15日 | | 大槻　雅弘 | 三橋　勉<br>古市　昌造 | （別稿詳報） |
| 1674 | 桟敷ケ岳 | 1月24日 | | 山元　誠一 | 横井、方山<br>岡田、竹田<br>井上 | （別稿詳報） |

# 部員動静

| 目的地 | 月日 | 天候 | 参加者 | 記事 |
|---|---|---|---|---|
| ヒマラヤの山旅 | 12月21日〜1月5日 | | 木原　滋 | （別稿詳報） |

# 雑報

## 2月の集会

10日　場所　厚生会館4F 大教室

出席者　本局　方山、古市、井上、三橋、大槻雅弘、鷲見敏一

OB　津田、横井、坂井、伊藤　　高速　岡田、大倉

梅津　吉田　　九条　和田　　以上　14名

インドア「山の民の話」　津田　実

例会報告、個人山行、清掃登山について。　その他。

## 他山岳会の会報（受贈分）

1月号　青嶺

2月号　北山、京都山岳、近畿山行、比良山岳、木雞、山友、歩渉譜、趣味の登山、山岳巡礼

62年12月号　みなかみ（奈良山岳会会報）

## 部費受領

高速　大沢　泰、田村忠司　　錦林　生田敏雄　　本局　平野　裕

五条　平田嘉輝、牧野　健　　横大路　岡本義弘

## '88 2月号の訂正と追加

伊藤潤治の原稿中

- 10ページの16行目までは「1987年9月3日」の原稿、
- 10ページの22行目の「…点名　渓峰…」は「…点名湊峰…」に訂正します。

# 京都国体山岳競技コースを登ろう会開催要項

京都府山岳連盟では、ひとりでも多くの人に山岳競技を知っていただくため、下記のとおり『京都国体山岳競技コースを登る会』を企画しました。

主　催　京都府山岳連盟

期　日　昭和63年3月27日(日)

コース　別記のとおり。

参加資格　小学生以上。日頃からハイキングや山歩きをされている方であれば年齢に関係無く参加できます。

人　員　制限はありません。

参加料　無　料

記念品　参加者全員に記念品(登山用小物袋)を進呈します。

コース　下記のコースを自由に選んでご参加下さい。

申込み　必ずハガキに氏名、年齢、性別、住所、自宅電話番号、参加希望コース(A、B)を明記のうえ締切期日までに下記あてお申込み下さい。

＊締切　昭和63年3月20日(例会参加希望者は担当者へ申込んで下さい。)

＊宛先　〒612　京都市伏見区深草中ノ島町39　(株)ミユキ商事内
京都府山岳連盟　事務所　あて

## コース区分・行動概要

| 区分 | (A) 愛宕山コース<br>(京都国体山岳競技・縦走T2コース) | (B) 天童・飯森山コース<br>(京都国体山岳競技・縦走T3コース) |
|---|---|---|
| コース | 清滝ー愛宕表参道ー頂上社務所前ー月輪寺ー梨の木谷林道ー清滝<br>(出発地の清滝に戻り解散します) | 運動公園ー中江ー竜ケ坂ー茶呑峠ー天童山ー飯森山<br>(帰路は往路を下山します) |
| 集合 | 場所　京都市右京区嵯峨清滝<br>京都バス　発着所<br>(清滝行バスの終点です)<br>時刻　午前8時30分(時間厳守) | 場所　北桑田郡京北町比賀江<br>京北町立運動公園　駐車場<br>JRバス　比賀江下車<br>時刻　午前8時30分(時間厳守) |
| 服装 | 登山に適した服装　靴はジョギングシューズで十分です。 | |
| 携行品 | 弁当、水筒、雨具、その他　(小型のリュックザックが適当です)<br>当日の天候によりますが、ヤッケ、セーター類を持参下さい。<br>ショルダーバッグや手提バッグ類は疲労が多く適当ではありません。 | |
| 出発 | 集合地を　午前9時00分発 | 集合地を　午前9時00分発 |
| 解散 | 場所　清滝<br>時刻　午後　3時頃(予定) | 場所　町立運動公園<br>時刻　午後　3時頃(予定) |
| | 天候その他の条件により変わる場合がありますのでご承知下さい。 | |

帆　布・濾　布
テント・シート
雨　合　羽
**木村工業有限会社**
京都市中京区ミブ車庫前
TEL　801　5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL　321−0251

愛されるスポーツ店
京菱運動具店
本　店　下京区大宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店　南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店　伏見区白菊町西友ストアー4F
TEL(623)　0824
山科店　山科区音羽野田町1番
西友ストアー山科店
TEL(592)9770 内線 228

営業時間
一年中、山用品だけの
プロショップ
午前10時〜午後1時と午後3時〜午後8時
(午後1時〜3時は閉店させて頂きます)
<定休日>　火・水曜日
山・アウトドア　プロショップ
ログ　ケビン
京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
(四条河原町・阪急河原町より徒歩4分)
LOG CABIN

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
あらゆる地図のご用命は
株式会社
小林地図専門店
600　京都市下京区烏丸通六条下ル
TEL 075(351)6598(代)
地下鉄：烏丸五条　6番出口南50m
市バス：烏丸六条下車

HIKE & CAMP
この用具の事ならコニシが一番です!
御来店ありがとうございます。
山とスキー　レジャー　スポーツ　ショップ
そして
海の コニシ
中・二条通河原町西　TEL 231−1202

昭和63年3月1日

京都市中京区壬生坊城町　48
京都市交通局内
京交山岳部

お　知　ら　せ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い一時立退きと相成りました。
改築期間中（約1年間）は、本店2階にチロルコーナーとして継続いたします。

チ　ロ　ル

移転先　本店2階
京都市中京区西ノ京円町　24

ダイヤ運動用品株式会社

HORIUKE KYOTO
まかせて下さい…ネ
ホリウケ

☆　在庫豊富にとり揃えています。
☆　山の道具は　ゼヒ　御相談下さい

ふとスキー専門店
ビッグ ホリウケ

河原町店　上・河原町通丸太町東入
TEL　222−0363

御婚礼
御引越
ぎおん菊水　専門

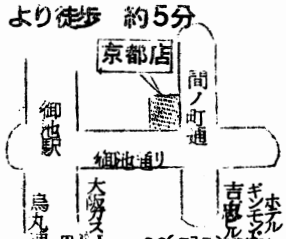
ぎおん菊水運送株式会社
山科配車センター
京都市山科区西野山階町12−12
TEL（075）581−3101
本　社
東山区大和大路四条下ル　541−2345
夷川営業所
中京区室町二条上ル　256−3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西　島　輝　雄
左・川端丸太町下る下堤町　88
TEL（075）771−3442

場所も変わって、広くオシャレに。　アウトドアー&スキー専門店

京都市地下鉄「御池」駅より徒歩　約5分




ロッジ・京都店4月18日（土）移転オープン

京都市中京区御池通高倉西入高宮町　200番地
TEL　075　255−0595

株式会社 ロッジ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 梅田日生ビル店 | 大阪市北区堂山町　3号 | TEL | 06(315)7757 |
| 大阪駅前第4ビル店 1F | スキー店 大阪市北区梅田1丁目5番地 | TEL | 06(341)5444 |
| 2F | 登山店 大阪市北区梅田1丁目5番地 | TEL | 06(341)5578 |
| みなみ店 | 大阪市西区北堀江1丁目3番7号凱旋ビル1F | TEL | 06(532)2801 |
| 京都店 | 京都市中京区御池通高倉西入高宮町200番地 | TEL | 075(255)0595 |
| 高岡ヨーデル | 富山県高岡市戸出3丁目　2036 | TEL | 0766(63)6360 |